

施策番号	222	施策名	林業の振興	主管課名	産業観光課
総合計画 体系	政策名	2	地域経済を支える里づくり	令和 2 年度課長名	小椋 正己
	関係課名		建設課	シート作成者	阿部 良文

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	
ア	町内の林業従事者数	→	ア	人	見込値			72			
						実績値	106	106	106		
イ	町内の森林	→	イ	ha	見込値			36,655	36,300	36,300	
						実績値	36,371	36,370	36,284		
ウ		→	ウ		見込値						
						実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	
ア	担い手の確保	→	ア	人	目標値	72	72	72			
					実績値	106	106	106			
					達成率	147.2%	147.2%	147.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	
イ	優良材の生産	→	イ	千円	目標値	182,000	182,000	196,000	190,000	195,000	
					実績値	251,655	219,501	197,532			
					達成率	138.3%	120.6%	100.8%	104.0%	101.3%	
ウ	森林の保全	→	ウ	ha	目標値	650	650	700	400	425	
					実績値	457	370	274			
					達成率	70.3%	56.9%	39.1%	68.5%	64.5%	
エ		→	エ	人	目標値	160	160	160	150	150	
					実績値	158	153	149			
					達成率	98.8%	95.6%	93.1%	99.3%	99.3%	
⑤ 成果指標 設定の考え方		林業の振興策を客観的に判断するため、森林面積の増減等へ影響を及ぼす林業従事者数、実績数値である素材生産高、間伐実施面積、後継者等の所属する林業研究会(鏡野町林業研究グループ連絡協議会)会員数を比較する。				⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等		ア: 林業従事者数、統計データ イ: 素材生産高 森林組合資料 ウ: 間伐実施面積 岡山県、おかもやまの森公社、森林整備センター聞き取り エ: 林業研究会会員数 岡山県資料			

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 間伐など保育作業による森林の保全。 後継者の育成、技術の伝承。 木材の積極的な利用。 森林の持つ多面的機能の学習、認識。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林所有者等が積極的に、意欲的に施策を実施できるような施策の創設。 吉井川、旭川及びその支流は、下流域である岡山県南部の水源として重要な役割を果たしている。このようなことから、下流の住民団体へ水源の森林造成に参加してもらうよう積極的に働きかける。 地域住民参加による森林づくりの推進・林業団体の育成、支援。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
2 年度 の 評価結果	① 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)
	<ul style="list-style-type: none"> 林業従事者数は、新規就業者の確保が困難である中、定年退職、離職により減少傾向にあり、慢性的な担い手不足である。長期的に木材価格が低迷している中、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、住宅需要が見通せず大きく木材価格が下落したこと、また担い手不足の影響もあり、素材生産高、間伐実施面積ともに減少し、間伐実施面積については目標値より大きく低下している。林業研究会会員数については、若手会員の入会がない中、現会員の高齢化が進み、退会者が増加傾向にある。
	<input type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input checked="" type="checkbox"/> 低下した
	② 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)
	<ul style="list-style-type: none"> 林業従事者数(15歳以上就業者数の中の林業就業率)は、鏡野町106人(1.7%)、津山市199人(0.4%)、真庭市243人(1.1%)、美咲町48人(0.7%)、久米南町15人(0.6%)と近隣市町と比較して高い水準にある。 林業研究会会員数については、津山地域で177名(9団体)いる中、町内に149名(6団体)と近隣市町と比較して高い状況である。 人工林率は、70.1%と県下第3位に位置し、民有林の人工林面積(約21,633ha)は、1位がヒノキ(約14,747ha)、2位がスギ(約6,177ha)で全体の約97%を占める。
<input checked="" type="checkbox"/> 高い水準 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準	
③ 住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?)	
<ul style="list-style-type: none"> 住民からは、毎年、鏡野町の森林を持続させるために森林所有者への支援、事業体を含む担い手の確保が重要であるとの意見が多く寄せられ、町単独補助等による森林所有者への支援の充実を図っている。担い手確保については、岡山県、森林組合と連携して行っているが、十分な成果はでない。 鏡野町森林づくり協議会からは、担い手確保に向け、新規林業就業者や林業事業体を経済・技術支援する制度の具体的な内容を提言をされている。 近隣市町村と比較して手厚い、搬出間伐など町単独補助事業の充実により、町民アンケートの結果、住民全体の森林施策等に対する意識は高い。 	
<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準	
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取組や目標達成度	
■ 2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?)	
<ul style="list-style-type: none"> 森林経営管理制度に関する取組として、旧富村の森林所有者等に対して意向調査(618人、3,467ha、約6割回答の内町管理希望約3割)を実施。 町産材の利用拡大、木育を進める取組として、令和3年度から鏡野中学校(324名)に導入する木の学習仕組み立てワークショップを実施。 町産材、県産材を使用した木造住宅の建築に補助を行い、9戸(町産材5戸、県産材4戸)の建築実績。 町単独補助事業により地元団体と荒廃した里山である竹林(0.43ha)を整備し、ヤマモミジ等を植栽。 町産材の安定供給に資する木材集積基地としての役割を担う貯木場整備のため詳細設計(用地造成)を実施。 	
<input type="checkbox"/> 目標値以上 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値以下	
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向(うまくいかなかった取組や事務事業は? その原因は?)	
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、担い手を確保する取組等が中止になったことや木材価格が大きく低下したことにより、搬出間伐等の木材生産を主体とする森林整備が一時行えない状況であった。 令和3年度において、新規林業就業者、林業事業体を経済・技術支援をする制度を創設し、担い手確保、育成を行う取組を鏡野町森林づくりセンターと林業事業体が一体となって進めていく。 令和2年度県北、町内で被害が拡大しているナラ枯れ被害は、県北全域において前年より大きく被害が拡大し、拡大防止が困難な状況にあり、景勝地など景観保全的な拡大防止対策や危険木を中心とした駆除を実施していく。 	